

【臨床・研究】

閉塞性大腸癌に対する金属ステント留置術の臨床経験

とよ 豊 田 暢 彦 水 谷 和 典 服 部 晋 司
 み 三 浦 義 夫 しお 塩 田 撰 成

キーワード：閉塞性大腸癌，金属ステント，腹腔鏡下手術

要 旨

【目的】閉塞性大腸癌に対する金属ステント (Self-Expandable Metallic Stent : SEMS) 留置術の臨床成績を報告する。

【対象と方法】2015年10月より2017年1月までに SEMS 留置を試みた閉塞性大腸癌13例を対象とした。年齢は67歳から91歳で，性別は男性9例，女性4例であった。閉塞部位はS状結腸5例，横行結腸3例，直腸 (Rs) 2例，回盲部，上行結腸および下行結腸がそれぞれ1例であった。留置成功率，臨床有効率，手術までの期間，合併症を検討した。

【成績】留置成功率は回盲部の1例が留置困難で92.3% (12/13)，臨床有効率は留置症例では全例閉塞の改善がみられ100% (12/12)，留置から手術までの期間は平均13.5日であった (4-20)。手術は腹腔鏡補助下手術7例，開腹術4例で，2例は緩和目的で手術は行わなかった。全例留置期間中の合併症は認めなかった。

【結語】閉塞性大腸癌に対して SEMS は成功率も高く，有用な減圧処置である。

はじめに

閉塞性大腸癌は全大腸癌の3.1~15.8%とされており，緊急処置を必要とする oncological emergency な状態である^{1,2)}。従来閉塞性大腸癌は緊急手術の適応であるが，金属ステント (Self-Expandable Metallic Stent : 以下，SEMS) 留置術を行うことで，経肛門的減圧ができ，待機手

術が可能となる。

今回，当院での閉塞性大腸癌に対する SEMS 留置術の臨床成績を報告する。

対象と方法

2015年10月より2017年1月までに SEMS 留置を試みた閉塞性大腸癌13例を対象とした。年齢は64歳から91歳 (平均75.8歳) で，性別は男性9例，女性4例であった。閉塞部位はS状結腸5例，横行結腸3例，直腸 (Rs) 2例，回盲部，上行結腸および下行結腸がそれぞれ1例であった。留置成

Nobuhiko TOYOTA et al.

益田赤十字病院外科

連絡先：〒698-8501 益田市乙吉町イ103-1

益田赤十字病院外科